



令和元年度

学力特集号

令和元年11月1日発行

「いちえだ」

北九州市立一枝小学校 校長 麻生 和秀

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	<ul style="list-style-type: none">・領域では、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項についての正答率が全国平均を上回っている。・書くことについては正答率が低く、記述する面に課題があり、特に文章をまとめる表現が乏しい。
算数	<ul style="list-style-type: none">・図形や数量関係の領域問題の正答率は、他の領域に比べてやや高いものの全国平均を下回っている。・量と測定の正答率は、他の領域に比べてやや低いのが全国平均レベルとなっている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none">・「早寝・早起き・朝ごはん」の質問項目は、肯定的な割合が高く、基本的な生活習慣が身に付いているといえる。・将来の夢や目標をもっている割合も全国より高くなっている。・全項目の質問事項のうち積極的かつ肯定的な回答の割合は、多くの項目で全国よりも低くなっている。生活・学習面の消極的な傾向がやや強いといえる。・特に話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることの割合が低い。主体的・対話的で深い学びに繋がっていく能動的な関わりができるようにするためにはあいさつを励行して、思いや考えを表現しやすくする環境づくりに努める必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・各教科の学習の中に、「わかる授業づくりの5つのポイント」を位置付け、それを授業改善の基本の取組にしなが、書く力や考える力を高めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・学習時間(学年×10分+10分)や学年に応じた学習内容、自主学習ノートの進め方などをまとめた「一枝小学校家庭学習の約束」の取組の定着を図る。